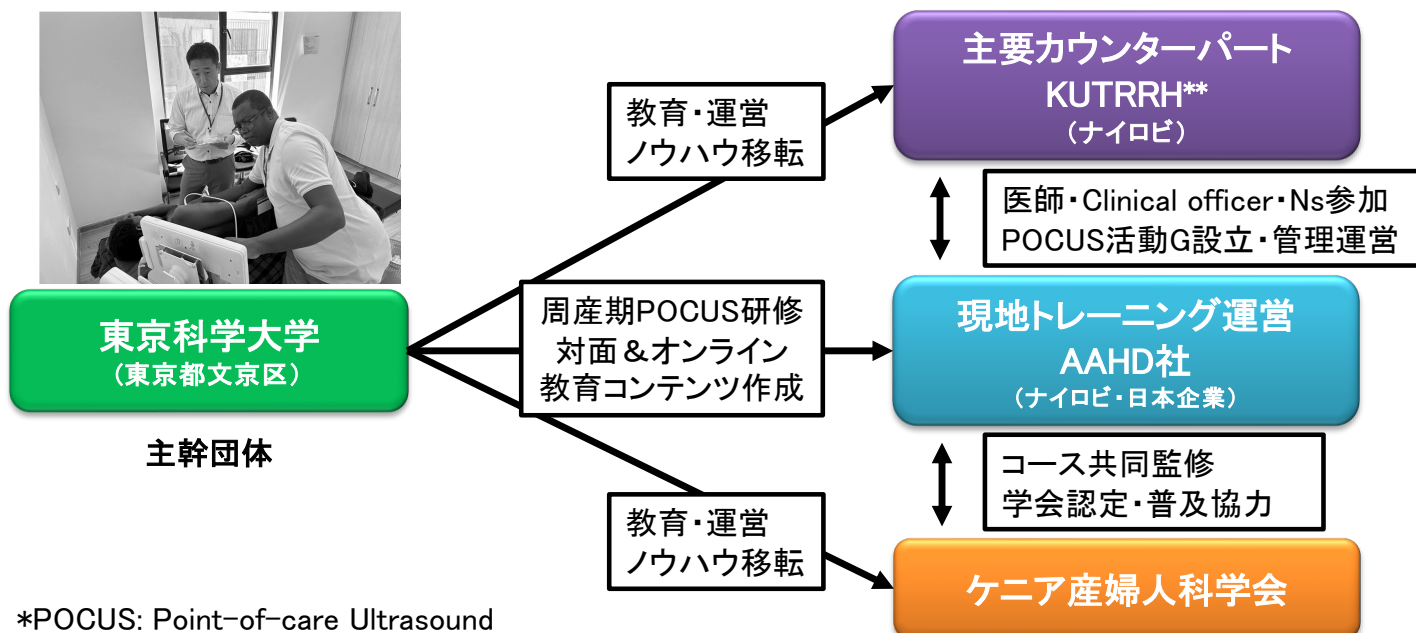


ケニア共和国における母子保健・周産期医療改善を目的とした多職種協働型産科・全身POCUS*人材育成プラットフォーム構築

3年計画1年目 東京科学大学

作成日：令和8年4月3日 【別添1】

1. 目的：多職種への日本型周産期POCUS教育と継続的な教育体制構築、妊婦健診・周産期診療の質とアクセス改善
2. 対象国における適切性：POCUS*はケニアの医療体系および国家保健政策と整合し、2024年の産科POCUSガイドラインにも位置づけられており、周産期医療においても受容性が高い。
3. 成果・着地点：
 - ・周産期POCUSの臨床導入とTOT（Training of Trainers）：3年間で主要3都市で受講生90名・指導者30名を育成
 - ・産婦人科学会認定による制度化、AAHD社とKUTRRH**を中核とした現地指導者による自立した教育体制の確立
 - ・早期診断による母子死亡率低減と日本製超音波機器・遠隔教育システム導入を見据えた教育基盤整備



*POCUS: Point-of-care Ultrasound

**KUTRRH: Kenyatta University Teaching Referral & Research Hospital

＜R8年度に想定している成果＞

- 教育基盤整備（教材作成・オンライン教育システム構築）
- ナイロビの多職種30名への教育と認定指導者10名以上（オンライン講義、現地ハンズオン研修、遠隔エコー指導、現地認定試験）
- 現地指導体制構築の協議（KUTRRH**・ケニア産婦人科学会）